

《担当者名》柳田早織 s.yanagi@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

発声発語障害のうち、機能性構音障害、吃音、音声障害について学ぶ。

【学修目標】

機能性構音障害、吃音、音声障害について、その症状、評価・診断方法、治療法を理解する。

1. 機能性構音障害の定義と種類およびその特徴について説明できる。
2. 機能性構音障害の評価法について説明できる。
3. 吃音の定義および特徴について説明できる。
4. 吃音の評価法について説明できる。
5. 音声障害の定義と種類およびその特徴について説明できる。
6. 音声障害の評価法について説明できる。
7. 機能性構音障害、吃音、音声障害の治療法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	機能性構音障害	機能性構音障害にみられる構音の誤り 発達途上にみられる誤り 異常構音	柳田早織
2 3 4	機能性構音障害	評価・診断 情報収集 構音検査 結果の分析	柳田早織
5	機能性構音障害	治療の概念、原則	柳田早織
6	機能性構音障害	訓練プログラムの立案	柳田早織
7	機能性構音障害	誤り方・音別訓練方法	柳田早織
8	吃音	定義、発生メカニズム、吃音症状	柳田早織
9	吃音	検査・評価、訓練・指導	柳田早織
10 11	音声障害	音声障害の種類と特徴	柳田早織
12 13	音声障害	検査・評価 喉頭内視鏡検査 問診 聴覚心理的評価 音響分析 空気力学的検査 声の高さと強さの検査 自覚的検査 その他	柳田早織
14	音声障害	音声障害の治療 外科的治療と薬物治療	柳田早織
15	音声障害	音声障害の治療 音声治療	柳田早織

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

大森孝一 編 「言語聴覚士のための音声障害学」 医歯薬出版 2015年
城本修 他 編 「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」 医学書院 2021年
日本音声言語医学会 編 「新編 声の検査法」 医歯薬出版 2009年

【参考書】

廣瀬肇 著 「音声障害治療学」 医学書院 2018年
阿部雅子 著 「構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版」 金原出版 2008年
日本音声言語医学会・日本喉頭科学会 編 「音声障害診療ガイドライン2018年版」 金原出版 2018年
城本修 他 著 「STのための音声障害診療マニュアル」 インテルナ出版 2008年
小澤恵美 他 著 「吃音検査法 第2版 解説」 学苑社 2013年

【備考】

Google classroomを利用して学習課題を提示する。

【学修の準備】

解剖生理学、音声学、音響学、神経学、音声言語聴覚医学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学などの関連基礎科目をよく復習しておくこと。(80分)
配布資料と教科書の重要な用語の定義を調べ必ず予習・復習を行うこと。(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

柳田早織(言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、機能性構音障害、吃音、音声障害のリハビリテーションに関する基本的知識および実践について講義する。